

<研究主題> 一人一人が学んだことを実感し、自分から行動する姿を目指して
～各教科等の指導を支える自立活動の視点から～

今号から3号連続で、学部授業研究会で話題になったことを紹介します。第1号は小学部を紹介します。

協議テーマ

- ・ 目指す姿が授業の中でどのように表れていたか
【一人一人が学んだことを実感し、うれしさややりがいを感じて自分から取り組む姿】
- ・ そのための手立て（学習活動、教材・教具、場の設定、教師の働き掛け）は適切か

★単元名★

小学部3年 生活単元学習 「ぱるぷでわっしょい！おまつりわっしょい！①～なつまつりをしよう」

★授業説明★

- ・ 本単元は、夏祭りの開催を目的に、パルプ液を用いた遊びや制作活動を計画。
- ・ 本時では、遊びに必要なパルプ液を進んで作ることを目標に、どの児童も繰り返し活動に向かっていた。
- ・ 抽出児は、初めての活動に自分から向かうことが苦手だが、教師の誘いに応じることができた。本時では繰り返しの活動に見通しをもち、面白さを見付けて参加していた。

★協議から★ 良かった点（青い付箋）

- ・ 分かりやすい手順→自分から活動へ
- ・ 遊びの繰り返し（パルプスライダー）
- ・ 活動への見通し◎
- ・ 抽出児を見守る教師の姿勢



★協議から★ 改善点（赤い付箋）

- ・ 気持ちが高まる「めあて」のおろし方
- ・ 即時評価の積み重ね
- ・ 個の役割の設定（合い言葉を話す、スタートの合図を出す等）
- ・ 友達とのやり取り
- ・ みんなで見合い、認め合える評価の仕方

<指導助言> 秋田県総合教育センター 指導主事 牧野 幸枝 氏

- ・ パルプ液の量が見えるように机を寄せる、2人ペアでやり取りする場面を設定する等の環境の工夫が考えられる。子どもが考える、待つ、引き寄せられる場面を意図的に作ってあげればよいのでは。
- ・ “褒められた、誰かの役に立った、目標が達成できた” と実感した時、「自分から」行動する姿につながる。やるべきこと、明確な目標が大事。
- ・ 抽出児が社会に出た時にどうなってほしいか、小→中→高の各段階でどのように育ててほしいか、子ども理解シートを有効活用して、育てたい力を普段から意識して過ごしてほしい。ひとりでじっくり取り組むことも大事だが、人との関わりの中で育てたい。やり取りの力を伸ばしてほしい。

before

「めあて」を言葉や写真で示したが、達成への見通しが分かりにくかった。

改善しました

「めあて」の提示の工夫

after

作ってほしいパルプ液の量を視覚的に示したことで目標が明確になり、児童自身が見て出来高を確認することができた。また、児童の取組みを即時評価したことで、パルプ液の完成に向けて進んで制作を繰り返す姿が見られた。